



## 《申込方法》

- ① **11月26日～12月8日**まで学生課にて申込書を配付します。  
 (1)利用日程 (2)人数 (3)会議室利用の有無等を第8希望まで記入していただきます。  
 抽選を行うための大切な申込書となりますので、できるだけ多くの欄に記入してください。
- ② **12月8日18:00までに**学生課窓口時間に受付BOXへ申込書を投函してください。  
 9日9:20から、7102号室にて、公開抽選を行います。  
 組んでいく順番決定のための抽選となりますので、宿泊先等の詳細は21日の発表までお待ちください。  
**◆【9日は参加必須ではありません】**
- ③ **12月21日昼休み**抽選結果を9号館で発表し、当選団体には手続書類の配付と説明を行います。  
 ※ホテル備品・施設等の詳細なお問い合わせ(要望事項等)は、関係者に直接質問できるこの場でお寄せください。
- ④ 当選した団体の手続書類提出は、**1月14・15日の昼休みに**学生課にて受付ます。  
 【書類提出は、上記期間中の昼休み時間帯ですので、ご注意ください。】

## 春季契約宿舎 宿泊受付予定施設は、こちらの7つです♪

- ①石和びゅーほてる(石和)
- ②ホテル花いさわ(石和)
- ③箱根高原ホテル(箱根)
- ④富士ビューホテル(河口湖)
- ⑤ルネッサ赤沢(伊豆高原)※コテージ型式
- ⑥八ヶ岳ロイヤルホテル(小淵沢)
- ⑦ホテルサンシャイン鬼怒川(日光)

### ★ 利用料金 ★

3,500円 (1泊2食付 消費税等込)

いずれの日も昼食は別料金です。

### ★ 開設期間 ★

2～3月の春休み期間

詳細は、学生課掲示板等でご確認ください。

**セミナーハウス(大学寮)ご利用の場合は、通常どおり学生課窓口時間にていつでも受付しています！ 利用料金は、契約宿舎より更に割安の(1泊3食付2,000～2,500円)です！**

中央大学学生課 042-674-3474



# みなさんの声をお聞かせ下さい!

学生部は、大学と学部学生の皆さんとのパイプ役を果たしていますが、その一環として一人ひとりの意見、考えそして提案を広く聞き、充実した大学を創るために学部学生を対象とした「オピニオン・カード」を受け付けています。ぜひ、活用してください。

## 投書方法

①中央大学ホームページのオピニオンカードメールフォームによる投書  
メニュー⇒「学生生活・就職」⇒「学生生活サポート」⇒「オピニオンカード」

②Eメールによる投書

下記のアドレスに意見・提案を送信してください。その際、次の事項を必ず記入してください。

1. 意見・提案
2. 氏名
3. 学籍番号
4. 回答希望の有無(回答を希望する場合は、連絡先を記入してください)



③専用用紙による投書

オピニオン・ボックスに添付してある専用用紙に意見・提案を記入し、投函してください。

<オピニオン・ボックス設置場所>

多摩キャンパス：学生課・各学部事務室・学友会事務室

後楽園キャンパス：理工学部事務室・理工学部学生生活課



Eメールでの受付

[opinioncard@tamajs.chuo-u.ac.jp](mailto:opinioncard@tamajs.chuo-u.ac.jp)



## 災害救援ボランティア講座 —参加者の声—

中央大学学生部

学生部では、前期試験が終了した直後の2009年8月1日(土)、2日(日)、3日(月)の3日間『災害救援ボランティア講座』を実施し、35名の学生が参加しました。この講座は「災害時、わが身と家族の命を守る」ため、実践的な防災の基礎知識と応急手当を学び、ひいてはボランティア活動の活性化に繋げることを目的とし、3日間、応急手当活動(東京消防庁による上級救命講習)、災害模擬体験と実技(消火訓練・地震体験・煙体験)、災害・防災について(講義・グループワーク等)の講座に熱心に取り組み、修了者には、災害救援ボランティア推進委員会より「セーフティリーダー認定証」が、東京消防庁より「上級救命技能認定証」が、それぞれ交付されました。

講座を修了した参加者の声をご紹介します。

この講座で身につけたものは、将来災害に直面した時にも役立つかもしれませんが、何よりも、自分の家族など身近な人に伝え、防災の知識をより多くの人に伝えていけたらと思います。事前に知っておくことが大切だと思うからです。私がこの講座を受けて一番よかったのは、防災館での地震体験や煙体験です。実際に体験しないとわからないこともあると思います。震度7の揺れは、本当に立ってられないほどなんだなぁとか、煙を吸わないように低い姿勢で歩くのは疲れるとか、いろいろ知ることができてよかったです。(文3・女子)



震度7の揺れを体験

今までに高校や大学の授業で救命について学んできたのですが、それでも今回初めて知ったことはたくさんありました。この講座を受けて救命技能を身につけ、認定されることで少し自信もついたので、万が一、目の前で人が倒れた時には勇気を持って駆けつけたいです。(法2・女子)

今後、いつかは起こるであろう大震災に自分が遭遇した時に、どのような行動をとるべきなのか、最低限の知識は身につけられたと思う。とくに応急手当の知識は、もし自分以外に人がいないところで、誰かが倒れているときに、自信を持って応急手当に取り組むことができると思えるほど、充実していた。(経3・男子)



ハイパーレスキュー隊の訓練場を見学

地震等の大規模災害に対して備えの必要性は以前から感じており、興味もあったが、具体的に何をしたら良いかわからず、何もできずにいた。今回の講座を通して救命技能と知識の他に、災害に対する心構えも学ぶことができ、とても有意義な経験をすることができた。(法2・女子)

関東首都圏での大地震が懸念される中で、実際に災害が発生した際に自分に何ができ

るのか、何をすべきなのかを知りたいと思い、この講座を受講しました。私は現在、教師になるべく教職課程を履修しています。もしもの時に果たして自分は生徒たちを守ることができるのか？この3日間で救援に関する様々なノウハウを学び、自身の糧にすることができたように思います。この機会に冷静な判断を持って生徒を誘導することのできる教師になることを決意しました。

(文3・女子)

この講座で、防災に対する意識、ボランティアのあり方、救命における初期救命行為の重要性など、様々なことを学ぶことができました。この経験を生かして、家でも防災を意識した対策が取られているか確認したり、日常生活においても使わないプラグは挿しっぱなしにしないなど身近なところから対応したいと思います。また、倒れていたり、苦しそうにしている人を見たら、そばから見ていただけではなく、駆け寄って対応するなどできたらいいと思います。

(経3・女子)



丁寧な指導の上級救命技能講習

近いうちに東京でも大きな地震があるかもしれないので、今回学んだことを生かしてまずは今できる準備を家族で行いたいと思いました。また、実際に起きてしまった時でも冷静な判断、かつ対応ができるようにこれからも

知識を身につけたり、地域の方とコミュニケーションをとる必要性を実感しました。

(文4・女子)

今回、災害救援ボランティア講座を受講し、災害に対する知識や緊急時における対応の方法を深く学ぶことができたと思う。特に、上級救命技能講習では基本的な救命方法からAEDの使用法まで幅広く学ぶことができ、大変勉強になった。今後、災害や事故等に遭遇した際には、今回学んだことを積極的に活用したいと思う。

(法3・男子)

近いうちに必ず地震などの災害に遭遇すると思われる。その際に自分の家族や友人に危険が迫った場合、少しでも何かの役に立ちたい、身近な人を助けたいという思いが募ってきた。今回の実践的な演習は今まで受けてきたものより本格的で体で覚えることができた。万のとき役に立てば良い。

(法2・女子)

今回、この3日間で学んだことを家族と話し合っ、防災の準備をしたいと思いました。そして祖父母に学んだ知識を教えてあげたいと思います。災害が起きた際は、パニックにならず冷静に物事を判断し、家族を指揮したいと考えます。そして、私が学んだ技能を活かせる時が来たら、自ら進んで救助したいです。以前だったら、救助が必要な人がいたとしても逃げ出すか、野次馬の1人になっていたと思います。しかし、今回を機に変わりたいと思います。

(経3・女子)



消火活動訓練も体験

## 上級救命講習会に参加して

理工学部1年 一ノ関夏生

去る8月4日、私は上級救命講習に参加しました。この講習に参加したきっかけは、とても単純なのですが、先輩や友達からの誘いでした。しかし、後で考えた時に、最近はこの駅にもAED(自動体外式除細動器)がある事に私は気が付きました。これに気付いている人はたくさんいるでしょう。ですが、使い方を知っている人はどのくらいいるのでしょうか。これらの事から、この講習を受けて少しでも救急に対する知識が付いたら良いと思い、受けることにしました。



講習では、東京救急協会の人に来てくれ、心肺蘇生(胸骨圧迫・人工呼吸)やAEDの使い方、応急手当の仕方などをテキストに沿って、また体験などを含めてわかりやすく指導してくださいました。私の一番印象に残った事が二つあります。一つは、人工呼吸の練習で乳児(1歳未満)への心肺蘇生です。やはり成人に比べて体が小さく、筋肉も発達していないので強く圧迫しすぎてしまったり、呼吸を吹き込みすぎると、肺が破裂してしまうなどの問題が生じてしまうの

で力の加減が難しかったです。これらの実習は模型を使って、本当に呼吸を吹き込み、胸骨圧迫を行ったことが、印象的でした。二つ目は、応急手当の中で包帯を用いた実習が印象に残っています。三角巾を一人一つ配られ、実際に巻いて固定したりするのですが、巻く部位によっても結び方があり、結んでみるとしっかり固定される事に驚きました。

この上級救命講習に参加して救命の基礎はもちろん、命の尊さを学べたのではないかと私は思っています。しかし何と言っても、楽しかったのが最も大きな感想です。東京救急協会から来てくださった担当の方に感謝しています。今後の人生で自分がどんな場面に立ち会うかわかりませんが、今回学んだ事を活かしたいと思います。





